

治りにくい「OS」にお困りですか？

根室北部事業センター 第1家畜診療課 獣医師 北村 亘



はじめに

すべての農家さんの敵といえ
ばやはり乳房炎だと思います。N
OSA I道東の病傷事故全体の
47%、死廃事故の9.5%（平成29年
度）は乳房炎が占めています。一
度治療を始めれば抗生剤を3日間
入れ続け、入れ終わってから休薬
期間が明けるまで1週間近く生乳
を出荷することが出来ません。乳
房炎が発症すると単純計算で1頭
当たり1000円（乳価）×30kg×
5日＝1万5千円＋薬代＋診療費
がかかります。それだけではなく
治療しせつかく治ったと思っても
数日、数週間後にぶり返してまた
治療…なんてことも多いかと思
います。

今回はぶり返してしまう乳房炎
（難治性乳房炎）への治療法を提
案いたします。

難治性乳房炎の原因菌

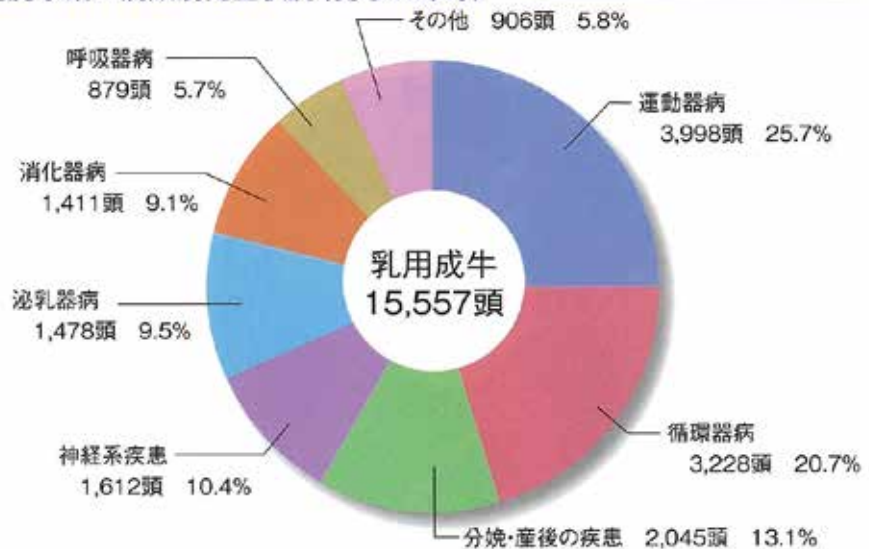
治りにくい乳房炎と言えれば何が
思い浮かぶでしょうか？多くの方
は「OS」、「SA」が思い浮かぶ

と思います。今回
は「OS」に絞っ
て書いていきたく
と思います。

「OS」とは O
ther Stre
ptococ
i（環境性レンサ
球菌）のことです。
Other（他の）
というくらいです
から「OS」は様々
な種類のレンサ球
菌をまとめた総称
となっております。
環境性の名の通
り、これらの菌は
麦稈等の敷料から
感染することがほ
とんどです。

乳汁検査で「OS」と結果が出
てもこれらを細かく判別すること
は依頼がない限りありません。判
別には時間がかかり、より煩雑な
検査が必要になるためです。菌が
違うと何が変わるのか、それは治
りにくさです。抗生剤を使用した
時の治療率に大きな違いが出てき

死廃事故の病類別発生状況（乳牛の雌等）



死廃率H29年度明日へのかけはしより抜粋

ます。その中でもStreptococcus
suberis（スト
レプトコッカス・ウベリス）は難
治性の「OS」で有名です。つま
りぶり返す乳房炎で、乳汁検査結
果が「OS」だったときはストレ
プトコッカス・ウベリスの疑いが
強くなります。「OS」全体で見



もストレプトコッカス・ウベリスである可能性は40%以上と高い検出率となっています。

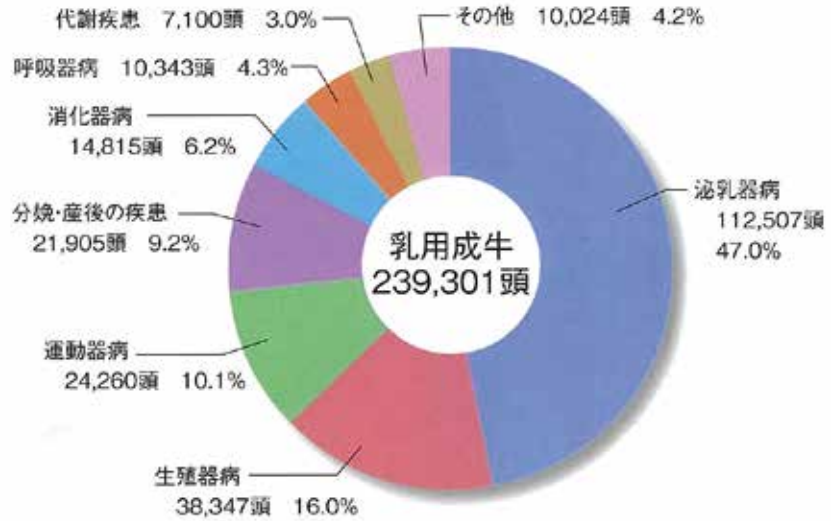
難治性乳房炎を引き起こすストレプトコッカス・ウベリスですが適切な治療を行うことで完治させる可能性を上げることが出来ます。

難治性乳房炎の治療法

ストレプトコッカス・ウベリスの効果的な治療法として抗生物質の6日間連続投与というものがあります。普通の乳房炎では3日間投与ですがストレプトコッカス・ウベリスは薬剤耐性傾向が高いためより長期間の治療が必要になります。ストレプトコッカス・ウベリスに従来の3日間投与をした場合の治療率は30%ほどですが、6

日間投与を行うことにより80%以上の治療率が得られたという報告もあります。抗生剤の選択ですが、「OS」はカナマイシン系に抵抗を示すことが多いのでセフェム系、ペニシリン系を使うことをおすすめします。抗生剤注射薬も併用すればさらに高い治療率が見込めます。6日間治療を勧めてきま

病傷事故の病類別発生状況(乳牛の雌等)



病傷率H29年度明日へのかけはしより抜粋



ペニシリン系乳房炎軟膏

したが、今まで通り3日で治る乳房炎も多くあります。「乳房炎軟膏は3日」と慣れている農家の皆さんだとは思いますが、乳汁検査を依頼して「OS」と結果が返ってきたがまだ乳房炎が治らない…という時には最寄りのセンター・診療所の獣医師にご相談ください。